

中国語話者のための日本語教材における存在文について：中国語の「里 (li)」と日本語の「中」を中心に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 案野, 香子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006614

中国語話者のための日本語教材における存在文について

—中国語の「里 (li)」と日本語の「中」を中心に—

案 野 香 子

【要 旨】

本稿では、『体験日語』(近刊)という初級教材の位置詞に関する問題点と改善案を紹介した。中国語の「里」は極めて抽象的で文法化の程度が高い。しかし、日本語の「中」は「外」があるという前提の上での「中」であり、対比性が強く、また具体的である。「里」が広く使われるのに対し、「中」は用法が限定されていると言えよう。以上のことから、海外で外国語を、しかもノンネイティブの教師が教える場合は、母語干渉による誤用がおきる可能性を十分に理解して、教室活動を行うべきである事を述べた。

【キーワード】 位置詞、里 (li)、中、日本語初級教材

1. はじめに

本稿は、中国語話者のために開発された日本語初級教科書において、存在文がどのように提示されているかを考察し、その問題点と改善策を検討するものである。

まず、対象となる教材の紹介をしよう。本稿で扱う教材は、中華人民共和国「普通高等教育十一五国家級企画教材」としての『体験日語 新型多媒体 (マルチメディア) 立体化系列教材』(主編：李姐莉、副主編：案野香子他 2011年近刊 中国高等教育出版)である(全編中国語で執筆・解説)。このマルチメディア教材は、中国国内で日本語を学習するためのもので、2002年に誕生した中国国内で使用する第二外国語教材『日本語初級総合教程』(主編：李姐莉、副主編：案野香子 中国高等教育出版)の改訂版であるが、この十年の間に、大学教育における第二外国語の質が高まり、大学生の日本語運用能力も上達したため、改訂版作成の必要が生じた。そこで、『体験日語』では、付属のマルチメディア (CD-ROM) も撮影・録音を新たにしておし、教科書の本文、練習帳も改めて書きなおした。

しかしながら、いくら改訂を行っても、問題は生じる。

本稿では、その中でも、存在文をとりあげたいと思う。以下、第2節では、中国語と日本語の存在文の構造を確認する。第3節では第2節をうけて中国語話者が日本語の存在文を学習する際にどのようなことが問題となるのか、またこの『体験日語』では何が問題なのかということを考察する。さらに、第4節では中国語の「里」、第5節では日本語の「中」を対照的に考察し、最後に第6節として、今後、日本語の存在文、特に位置名詞が「中」である場合に、中国語話者に対してどのように教科書に記載すればいいかという注意点を提案してまとめたい。

2. 日本語と中国語の存在文

中国語の存在文の構造と日本語の存在文の構造は非常によく似ている。

I

○日本語

〈場所〉に〈無情物〉があります／〈場所〉に〈有情物〉がいます

- (1) 部屋に電話があります。
- (2) 教室に先生と学生がいます。

○中国語

〈場所〉有〈無情物・有情物〉。

- (3) 房间 里 有 电话。(『体験日語』第8課)
部屋 中 ある 電話 (部屋に電話があります)
- (4) 教室 里 有 老师 和 学生。(『体験日語』第8課)
教室 中 いる 先生 と 学生 (教室に先生と学生がいます)

II

○日本語

〈無情物〉は〈場所〉にあります。／〈有情物〉は〈場所〉にあります。

- (5) 私の本は机の上にあります。
- (6) 李さんはあそこにいます。

○中国語

〈無情物／有情物〉在〈場所〉

- (7) 我 的 书 在 桌 子 上。
私 の 本 ある 机 上 (私の本は机の上にあります)
- (8) 小 李 在 那 儿。
李 さん いる あそこ (李さんはあそこにいます)
- (9) A: 铃 木 在 教 室 里 吗 ?
铃 木 いる 教 室 中 か (A: 鈴木さんは教室にいますか。)
B: 不, 不在。
いいえ いない (B: いいえ、いません)

つまり、Iの「有」は文頭に時間・場所を表わす語句を置き、「ある・いる」を表わす。また、IIの「在」は「(…が…に)ある、いる」で人や事物の存在する場所を表わす。

市川保子(2005)では、「～に～があります」「～は～にあります」の違いが分からない、というところが学習者にとって難しい、あるいはよく出る質問と指摘しているが、少なくとも中国語話者にとってはこの二つの文型の違いについては質問されることは多くなさそうである。誤用があるとすれば、有情物と無情物によって述語が「いる・ある」と変化することに混乱を感じることでであると予測される。

3. 問題のありか

さて、本稿における問題点を述べる。第2節にあげた例をもう一度見ていただきたい。

(3)(4)の中国語文は、実は直訳すると、「部屋の中に電話があります」「教室の中に先生と学生がいます」となる。「里」が日本語の「中」にあたるためである。(9)も同様で、「A：鈴木さんは教室の中にいますか。B：いいえ、いません」となる。

いずれも片端から「里」を「中」とそのまま訳してしまうと、不自然あるいは誤用とみなされる日本語文ができあがる可能性がある。さらに『体験日語』ではこのような存在文語彙リストに「中」の対訳として「里面、中間」を載せているだけであるため、学習者の誤解と誤用を引き出しやすくなると思われる。『体験日語』は中国国内で使用するという前提で作られているが、教室で教師が直接教えるときに使用できる教科書として使用される一方、社会人や趣味で日本語を勉強する人が自学習するときにも使えるようにも作られている。前者で且つ熟練した教師が教鞭をとっているのであれば、その場で学習者の誤用を直すことができるが、後者の場合、学習者の誤用を直す者は誰もいない。そう考えると、教科書に何を記載するかに対する編集者の責任の重さを痛感せざるをえない。

そこで以下では、中国語の「里」と日本語の「中」の意味的違いを明らかにし、中国語話者対象の日本語教材をどのように改善すればいいのか、検討する。

4. 中国語の「里」

(3)(4)(9)の例からわかるように、中国語では「里」を多用するため、母語干渉から中国語を母語とする学習者も「の中」を多用する傾向があり、したがって、

(10) 部屋の中に電話があります。

のように、誤用というのかなんとなく日本語としてしっかりこないような、そんな文を産出することがよくある。

では、中国語において「里」はどのようなときに用いられるのか、用例から考察してみる。

4.1 「里」が使われない場合

「里」は単独では用いられない。たとえば、

(10) *里 是 水。
中 である 水 (中は水だ)

「里」の前に名詞をつけるか、或いは後に「边」、「面」などを付けて、「里边 (libian)」「里面 (limian)」のような複合名詞にしなければならない。また、王軼群 (2009: 88) によると、本来的に場所を表す固有名詞には用いられることはない。

(11) 我 在 东京。
私 いる 東京 (私は東京にいる)

(12) *我在东京里。

4.2 「里」を使っても使わなくてもいい場合

王軼群 (2009: 88) では、次のような確定した場所名詞は「里」が任意であるという。

(13) 他 在 {图书馆 / 学校 / 银行…} (里)。
彼 いる {図書館 / 学校 / 銀行}。(彼は {図書館/学校/銀行} にいる)

ただし、「図書館で勉強する」の「図書館」は場所名詞だが、「図書館を改築する」の「図書館」はモノと看做されるため、当然「里」は用いられない。

4.3 「里」が使われる場合

モノ名詞、例えば「皿」「机」「本」などが場所名詞を表すのに用いられる場合、関係名詞（つまり、里、上、下…）が義務的に要求される。

- (14) 它 在 桌子 上。
それ ある つくえ 上 （それは机の上にある）

- (15) * 它在桌子。

例えば「皿を割る」であれば「皿」はモノであるが、「皿の上に料理を盛る」の「皿」は場所名詞となる。話し手がモノをどのように認識するかによって、単なるモノと見なされるか、場所となるかが決まってくると思われる。

その他、『現代汉语八百詞』（呂叔湘 商務印書館1999年）から「里」が用いられる例を挙げる。

- (16) 房间 里 有 人。
部屋 中 いる 人 （部屋の中に誰か人がいる）
- (17) 上个月 里 他 来过 一次。
先月 中 彼 やって来る 一回 （彼は先月一度来た）
- (18) 他的 发言 里 有 这 方面 的 内容。
彼の 発言 中 ある この 方面 の 内容
（彼の発言には、その点も含まれている）
- (19) 厂 里 要 我 马上 去 厂 里 一趟。
工場 中 ほしい 私 すぐに 行く 工場 中 （量詞）
（工場から私にすぐに工場に来いと言ってきた
：前の「工場」は機関、後の「工場」は場所）
- (20) 家里 来 信 了 , 叫 你 回去。
家中 来る 手紙 た させる あなた 帰る
（帰ってくるようになって家から手紙が来たよ。：「家」は人）
- (21) 我 从 家里 来。
私 から 家中 来る
（私は家から来ました : 「家」は場所）
- (22) 手里 拿 着 一 封 信。
手 中 持つ ている （量詞）手紙
（手に一通の手紙を持っている : 「手」は具体的）
- (23) 手 里 收 集 了 一 些 材 料。
手 中 集める た 少しばかり 資料
（手元に少しばかり資料を集めた : 「手」は抽象的）

こうして見ると、(16)(19)(21)(22)の「部屋」「工場（後者）」「家」「手」は具体的な場所

名詞として、「里」を付加して「その中」という概念を持つのは容易である。一方、(17)は「先月」という時間名詞に「里」が付加しているが、「先月」は「今」等とは違って幅のある時間を表す名詞であるから、「先月の中」という概念を持つことは可能である。(18)の「彼の発言」もある範囲或いは幅のある概念である。

しかしながら、(19)(20)(23)の「工場(前者)」「家」「手」はある一定の範囲を有する具体的な場所概念ではなく、機関や抽象的な所在場所を表す。

上記から、中国語の「里」が付加しうる名詞を整理すると、確定的な場所名詞、幅のある時間名詞・発話名詞、機関や抽象的な所在場所などがあげられる。

そうすると、中国語の「里」は具体的に「内側」という名詞性をもつこともあるが、漠然と「一定の範囲内」へと派生した抽象的な意味を有する場合もあることがわかる。王軼群(2009)も指摘しているが、中国語の「里」は日本語と比べて文法化の度合いが非常に高いといえる。

5. 日本語の「中」

前節では、中国語の「里」について考察したが、本節では日本語の「中」について考察する。5.1では「中」が使われない場合、5.2では「中」を使っても使わなくてもいい場合、5.3では「中」が使われる場合について考察する。

5.1 「中」が使われない場合

(24) *鳥が空の中を飛んでいる。(王軼群2009)

(25) *手の中に本を持っている。(同上)

(26) 手の中に切符が2枚ある。

(27) *花を花瓶の中に挿す。(同上)

(28) 花を花瓶に挿す。(同上)

日本語では、ある場所の内側と外側が明確に対比できる場合において、その内側を「中」と呼ぶ。したがって上記の例の「空」は内・外の区別がないことから「空の中」とはいえない。「外ではなく中」という対比関係が想起できないのである。

ちなみに、中国語では、

(29) 鸟儿 在 天空 (中) 飞 着。

鳥 で 空 (中) 飛ぶ ている

(30) *鳥が空の中を飛んでいる。

のように「中」を使っても使わなくてもよい。そうすると、中国語話者によって(30)のような誤用が生み出される可能性は避けられない。

同じ「手の中」であっても、「本」であれば、手の中にすっぽり入ることができず、本は手の平の「外」に大きくはみ出している可能性がある。だから、「手の中に本を持っている」は言えないのだが、「切符」であれば、比較的小さいものであるということが常識として解釈でき、手の中に入るものと考えることができる。したがって「手の中に切符が2枚ある」は文として自然なのである。

次の「花瓶」であるが、「花瓶」も中・外の区別があるものである。しかし、一般的に花

瓶というのは、中に花を挿すために存在する器としてその価値が認識されており、その外という場所は想定されていない。よって、「花を花瓶の中に挿す」とすると、説明のしすぎで不自然という印象を受けるのだと思われる。

5.2 「中」を使っても使わなくてもいい場合

以下、「中」を使っても使わなくてもいい例をいくつか挙げる。

(31) 森の中で道に迷う。

(32) 森で道に迷う。

(31) (32) の「森」は、表面から隠れた奥深いところという一般認識があるため、「道に迷う」のは「森」だけでも自然に認識されるし、当然「森の中」でもよい。

(33) 財布の中が空になる。

(34) 財布が空になる。

「財布」は袋状になっているもので、空間的に仕切られた内側と外側に分けられる。物を入れるのは内側であり、そこに何も無い状態をいう。

(35) クラスの中から代表を選ぶ。

(36) クラスから代表を選ぶ。

「クラス」はある限られた範囲の集団を言う。したがって (35) のように「クラスの中」とすると「あくまでも当該クラスで」と範囲が極めて限定される印象をうける。

(37) 夢の中に幼なじみが現れた。

(38) 夢に幼なじみが現れた。

「夢」は一続きの内容をもった話であり、あるまとまりをもった抽象的な場所とみなすことができる。したがってその場所を区切られた範囲と捉えれば「夢の中」となるし、単に一続きの内容を持った話とだけとらえれば「夢」となる。

つまり、日本語で「中」を使っても使わなくてもいい場合というのは、「中」と「外」が対比的に認識されているにもかかわらず、話し手がその区別を明確にしようとしないう場合ということができよう。

5.3 「中」が使われる場合

先も述べたように、「中」はそのもの自体ではなく、内側・内部であることを明確に外側と区別して述べるときに使われる。

(39) ポケットの中でぼくは掌の汗を拭った。(張麟声 2001)

(40) 鼠は、小さな赤い籠の中で根気よく車を踏んで廻したり、砕いたピーナツ屑を前肢でつかんで食べたりしていた。(張 2001)

「ポケットの中」「籠の中」は人間の動作のできる空間ではなく、袋や箱のような人間の入れない容器類であるから、「の中」を使わなければ、妙な文となってしまう。(張 2001)

「ポケットの中」は中国語でも、「里」をつける。

(41) 我 在 口 袋 里 擦 了 擦 掌 心 的 汗。

私 で ポ ケ ッ ト 中 何 度 も 拭 っ た 手 の ひ ら の 汗

人間が入ってその中で有る動作ができる空間の場合、

(42) 体育館（の中で／で）、先生の話聞いた。

「の中」を使っても使わなくてもかまわない。ただし、日本語では「体育館の中」とすると、「体育館の外で先生の話聞くのではなく」、という対比的な意味が含意され多少不自然になる。

中国語では、

(43) 我们 在 体育馆 里 听 了 老师 的 讲话。

私たち で 体育館 中 聞く た 先生 の 話

のように「里」は任意である。

では、他の日本語例では、「中」がどのように示されているだろうか。

(44) 腹の中を探る。

(45) 部屋の中が丸見えだ。

(46) 予算の中でまかなう。

(44) (45) (46) とともに、あくまでも内側という概念が強い。しかもこの3つの例においては、外側との対比性という含意もそれほど強くない。内側でしかできないのである。

6. 中国語の「里」と日本語の「中」

以上4節と5節で述べたことをまとめる。中国語の「里」を含む文は「中」と訳すこともできるが、「家から手紙が来た」のような場合でも「家の中から手紙が来た」となってしまうことがある。つまり、中国語の「里」は極めて抽象的で文法化の程度が高い。

しかし、日本語の「中」は「外」があるという前提の上での「中」であり、対比性が強く、また具体的である。「里」が広く使われるのに対し、「中」は用法が限定されていると言えよう。このことを知らないと、中国語母語話者が日本語学習をするとき、「里」をすべて「中」に訳してしまい、「家の中に電話があります」のような中国語の母語干渉による誤用を多出することにつながるのだと考えられる。

7. 中国語話者のための日本語の「中」の導入

第3節で、『体験日語』の存在文に関する問題点、特に位置詞の「里」と「中」の意味用法が中国語と日本語で異なっている点をあげた。その後、第4節～第6節で両者の違いに関する考察を行った。このことから、『体験日語』の不足部分が明らかになり、更に、どのような場合に中国語話者が母語干渉による誤用を産出するかがわかってきたように思われる。

そこで、本節では、『体験日語』の改善点を述べたい。

7.1 用例の出し方

『体験日語』第8課で提出されている巻頭の用例とその日本語訳をもう一度示す。

(47) 房间里 有 电话。（部屋に電話があります）

(48) 教室里有 老师和 学生（教室に先生と学生がいます）

(49) 那儿有什么？（そこに何がありますか）

(50) 现在，老师的 研究室里有 谁？（今、先生の研究室に誰がいますか）

(51) 那个商店里有 各种各样的东西。（あの店にはいろいろなものがあります）

(52) 父母都在北京。(父も母も北京にいます)

「里」を用いているのは、(47)(48)(50)(51)であるが、日本語訳ではそれを「中」としてはいない。解説の部分にも、日本語の「中」についての詳しい記述がなく、そのため、ここでの位置詞の指導はこの教科書を使う「教師の力量」に頼るしかない。また先にも述べたが、自学習の学習者においては誤用に気がつかないということもあるかもしれない。

7.2 改善案

前述のとおり、日本語の「中」は「外・外側」との対比性が強く、「外ではなくて中」と主張したいときに用いる。

筆者が初級の第一段階で提案したい用例は、

(53) A: 箱子 里 有 什么? (箱の中に何がありますか)
箱 中 ある 何

(54) B: 箱子 里 有 圆珠笔。(箱の中にボールペンがあります)
箱 中 ある ボールペン

であり、授業では例えば、下の用例を教師が学習者に中国語で言い、「中」を強調する。

(55) 放到 箱子 里。(箱の中に入れます)
入れる 箱 中

(56) 里面 装 着 什么? (中に何が入っていますか)
中 入れる ている 何

(57) 请 在 里边 等 吧。
下さい で 中 待つ ね (中で待って下さい)

つまり、「里」「里边」と「中」が完璧に対応する例である。日本語母語話者の教師ではなく、中国語母語話者の教師(ノンネイティブ教師)自身であっても母語干渉に戸惑わされることなく、初級中国語学習者に教えられるのではないかと考える。

8. まとめ

以上、「中国語話者のための日本語教材における存在文の提示～中国語の「里(li)」と日本語の「中」を中心に～」というタイトルで、『体験日語』(近刊)という初級教材の位置名詞に関する問題点と改善案を紹介した。

たとえ中国語話者でなくても、海外で外国語を、しかもノンネイティブの教師が教える場合は、母語干渉による誤用がおきる可能性を十分に理解して、教室活動を行うべきであるし、教材作成も「～語話者対象」とするからには、まずは教材作製者がその言語と日本語のことを事前に対照研究しておかなければならないと警鐘を鳴らしたい。

《参考文献》

- 市川保子(2005)『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
王軼群(2009)『空間表現の日中対照研究』くろしお出版
張麟声(2001)『日本語教育のための誤用分析 中国語話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク

呂叔湘（1999）『現代汉语八百詞』商務印書館

Existential Sentence in the Japanese Materials for Chinese Speakers

—Focusing on Chinese ‘RI(Li)’ and Japanese ‘NAKA’—

ANNO, Kyoko

This paper introduces a problem and a proposal for improvement with regards to the presentation of a positional noun in the forthcoming book, “Experience Japanese Language.”

The Chinese word “li” is very abstract and its grade of grammaticalization is high.

However, the Japanese word “naka” expresses the idea of “inside” on the premise that there is an “outside”, and it’s contrastive nature is strong and concrete.

While a “li” is used widely, it can be said that usage of “naka” is limited.

In the case of Chinese speakers studying Japanese in China, and nonnative Japanese teachers teaching the Japanese language, they should understand that students misuse Japanese “naka” due to native language interference, and should conduct classroom activities accordingly.